

1 研究主題

「自ら課題を見つけ、生き生きと学び合う児童の育成」
 ～情報活用能力を育成するための教材開発や指導方法の工夫～

2 研究の具体

G I G Aスクール構想により、一人に一台タブレットが手渡され、I C T機器を活用した新しい授業作りの視点が必要不可欠となっている。これまで「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、授業改善に取り組んできたが、I C T機器を活用した学習活動や導入の工夫、言語活動や体験活動、思考ツールを活用した対話活動の工夫と定着に取り組むことで、児童の学びに向かう自主性や主体性を引き出すとともに学習の質を高め、さらに深い学びの実現を目指したい。

(1) I C T機器を活用した授業づくり

【単元の導入】



カメラ機能を使って一瞬を留めることの面白さを感じる活動 (6年図画工作科)

【単元の展開】



発達段階に応じたロイロノートを使っての交流 (1年生活科)

【単元の終末】



カナダの小学校とオンライン交流 (5年総合的な学習)

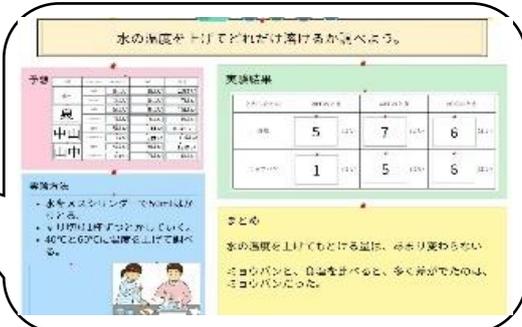
【共有ノートの活用】

実験・考察における共有ノートの活用

- ・「個人の予想」「実験結果」「まとめ」をグループで記録
- ・グループ間交流



共有ノートに記録



水の温度を上げておけば溶けるが溶けない。

水温	溶ける	溶けない
5	7	6
1	5	5

まとめ
 水の温度を上げておける温は、あまり変わらない。コップに、自分達が溶かす、多く溶かす、溶かす。

(2) 基本的なI C T機器活用スキルの向上

- ① I C T推進教員を中心とした教員研修
 - ・iPadの基本操作
 - ・ロイロノート(共有ノートやシンキングツール)の操作・活用法
- ②児童のタイピング練習



I C T推進教員を中心とした教員研修



児童が朝の活動で行うタイピング練習

3 研究の検証及び改善の手立て

- 教員・児童共にI C T機器活用スキルの向上が見られる。児童アンケートによると、I C T機器を活用して学ぶよりもより授業の内容がよく分ると感じる児童が増え、学習意欲の向上につながっている。どの学年でも、様々な教科で活用することができている。
- デジタルとアナログ(例えば電子黒板と板書など)のバランスについてさらに研究していく必要がある。

